日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	テクニカル2
科目基礎情報				
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	プレイヤーコース ギター専攻	開設期 後期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数 30時間
単位数	1単位	授業形態	実習	
教科書/教材	毎回レジュメ・資料を配布する。参考書：ギターバックイングまる覚え、ギター無窮動トレーニング			
担当教員情報				
担当教員	加茂	実務経験の有無・職種	有・ミュージシャン	
学習目的				
楽器を演奏するには肉体的動作を物理的にコントロールできることが不可欠である。この授業では、楽器の構造や肉体の構造から鑑みた、合理的なプレイフォームを学ぶ。プロミュージシャン（ギタリスト）を想定し、クロマチック演奏とバレーコード、何弦何フレットの音が何の音か、ネックの端から端までビジュアル的なイメージができること、16ビートカッティングやコードにフィルインを加えながら3コードブルースのバックイングやマイナーペンタを使用したブルースセッションに対応できるスキルの体得を目的とする。				
到達目標				
本科目はグレード対応科目となっており、1年次後期はグレード6～10に準拠して授業が進行する。ハーモニー的にはMajorダイアトニックコードを網羅しながらギターの指板に対して音名がビジュアル的にイメージできるように「指癖に頼らないギタリスト」としての到達目標を掲げる。一方でDiatonic Chordにオブリガートを加えて伴奏を弾くなど、世界的なギタリストのフレージングを学ぶ事によって良いフレーズを指癖としてストックするということも逆説的に行う。「ゲーミフィケーション」として教科書だけではなく具体的な楽曲を攻略し、「定期ライブに出演」する際のレパトリーとしていく。				
教育方法等				
授業概要	学生個々が持つ身体的特性（指の長さや身体の大きさ）等に留意しながら、グルーブレッスン形式で進行する。他の学生の演奏を自分ならどう演奏するか？と感じながら受けとめ、理解する。さらにそれを自分が演奏する場合はどのような音が出せるかを意識する。授業中の演奏だけでなく、世界的プレイヤーの演奏と自分の演奏を比較し、上級者も中級者も常に向上心を持って演奏技能を進展させることを目指す。			
注意点	キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。音楽業界の動きや最先端プレイヤー等について概説するので、自分でも情報を収集し、演奏技能の向上に努める事。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。			
評価方法	種別	割合	備 考	
	試験	30%	試験と課題を総合的に評価する	
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する	
	提出物	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する	
	成果発表 (口頭・実技)	30%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する	
平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）				
回	授業内容	各回の到達目標		
1回	調号とリードシート(1)	グレード6対応。調号を見た瞬間にキーを確認し対応するペンタトニックが弾ける。		
2回	調号とリードシート(2)	グレード6対応。#系調号の特性と、b系調号の特性を理解して演奏できる。		
3回	Diatonic Chord(1)	グレード7対応。Diatonic Chordを開放弦を使わないコードフォームで弾ける。		
4回	Diatonic Chord(2)	グレード7対応。Time After Time、Lovin' Yourのバックイングとその発展が弾ける。		
5回	Diatonic Chord(3)	グレード7対応。What's Going On、Summertimeのバックイングとその発展が弾ける。		
6回	16ビートカッティング(1)	グレード8対応。minor Bluesの構成と、Long Train Runnin'のバックイングとその発展が弾ける。		
7回	16ビートカッティング(2)	グレード8対応。Septemberのバックイングとその発展が弾ける。		
8回	16ビートカッティングと単音	グレード8対応。cissy strutをメロディーとバックイング共に弾ける。		
9回	オブリガート(1)	グレード9対応。David T Walkerのアプローチについて理解し、弾ける。		
10回	オブリガート(2)	グレード9対応。Mateus Asato、Allen Hindsのようなスライド奏法を駆使したテクニックができる。		
11回	オブリガート(3)	グレード9対応。Little Wingのバックイングとオブリガートがわかる。		
12回	インサイド&アウトサイド(1)	グレード10対応。オルタネイトピッキングの弦移動フレーズが弾ける。		
13回	インサイド&アウトサイド(2)	グレード10対応。Spainのメロディが弾ける。		
14回	インサイド&アウトサイド(2)	グレード10対応。Spainのバックイングとその発展が弾ける。		
15回	まとめ	全体のまとめ		

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	テクニカル2
科目基礎情報				
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	プレイヤーコース ベース専攻	開設期 後期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数 30時間
単位数	1単位	授業形態	実習	
教科書/教材	教科書：100年使えるベースのエチュード（リットーミュージック）、はじめてのジャズベース（リットーミュージック）			
担当教員情報				
担当教員	谷 源昌	実務経験の有無・職種	有・ミュージシャン	
学習目的				
演奏家にとってリズム、ハーモニー、メロディーを理解することはとても重要である。その為に、個々に合った正しい姿勢（楽器の構え方）を身につけ、左手のフォーム、右手のフィンガリング、両手のコンビネーションをストレスの無い（手に負担の掛からない）奏法を習得することを目的とする。様々なビート（8ビート、16ビート等）でグルーブ感を養う。コード進行を理解して演奏し、読譜力を身につけていく。指板上の運指を研究し、音に表情のある表現力を学ぶ。				
到達目標				
本科目はグレード対応科目となっており、1年次後期はグレード6～10に準拠して授業が進行する。基礎的な運指でのトレーニング。メイジャースケール、メイジャー・マイナーペンタトニックスケールの運指を指板上で研究・理解・演奏して、コードのルート音、コードトーンを弾けるようにする。リードシートを読み解きながらルート音を基本とした演奏を行えるミュージシャンとしての基礎力を技能として体得することを到達目標にしている。				
教育方法等				
授業概要	学生個々が持つ身体的特性（指の長さや身体の大きさ）等に留意しながら、グループレッスン形式で行う。教科書「100年使えるベースのエチュード(リットーミュージック)」を使い運指を学び、読譜力を高める。教科書「はじめてのジャズベース(リットーミュージック)」では、グレードに対応させながらスタンダード曲を中心コード進行や様々なビートを学びます。グレードの内容に応じてオリジナルのマイナスイヤホンやCDを用いて授業を行う。			
注意点	キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。音楽業界の動きや最先端プレイヤー等について概説するので、自分でも情報を収集し、演奏技能の向上に努める事。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。			
評価方法	種別	割合	備 考	
	試験	30%	試験と課題を総合的に評価する	
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する	
	提出物	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する	
	成果発表表 (口頭・実技)	30%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する	
平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）				
回	授業内容	各回の到達目標		
1回	前期のテクニックの復習	グレード1～5の復習と、各項目が出来るようにする。		
2回	Major Minor Triad Chord (1)	グレード6対応。Major Minor Triad Chordの分散和音が演奏できる。		
3回	Major Minor Triad Chord (2)	グレード6対応。Major Minor Triad Chordの分散和音を演奏できる。		
4回	Major7th Chord	グレード7対応。Major7th Chordについて理解し演奏できる。		
5回	Minor7th Chord	グレード7対応。Minor7th Chordについて理解し演奏できる。		
6回	Dominat7th Chord (1)	グレード7対応。Dominant7th Chordについて理解し演奏できる。		
7回	Dominat7th Chord (2)	グレード7対応。II - V - I についての理論がわかる。		
8回	Dominat7th Chord (3)	グレード7対応。II - V - I のコード進行のベースラインを演奏できる。		
9回	8ビート (1)	グレード8対応。Even8th Grooveを安定したリズムで演奏できる。		
10回	8ビート (2)	グレード8対応。Even8th Grooveを安定したリズムで演奏できる。		
11回	16ビート (1)	グレード9対応。16th Grooveを安定したリズムで演奏できる。		
12回	16ビート (2)	グレード9対応。16th Grooveを安定したリズムで演奏できる。		
13回	Blues II (1)	グレード10対応。ブルースコード進行を8th 16th Grooveで演奏できる。		
14回	Blues II (2)	グレード10対応。ブルースコード進行を8th 16th Grooveで演奏できる。		
15回	まとめ	全体のまとめ		

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	テクニカル2
科目基礎情報				
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	プレイヤーコース ドラム専攻	開設期 後期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数 30時間
単位数	1単位	授業形態	実習	
教科書/教材	毎回、資料を配布する。教科書 STICKCONTROL, SYNCOPATION, ドラムパターン大辞典326			
担当教員情報				
担当教員	前田	実務経験の有無・職種	有・ミュージシャン	
学習目的				
<p>ドラムを演奏するには無理のない姿勢で合理的な体のコントロールができることが不可欠である。この授業では、楽器の構造や肉体の構造から鑑みた、合理的なプレイフォームを学ぶ。プロミュージシャン（ドラマー）を想定し、様々な音符をスムーズに叩き分け、力みのない心地よいキレのある音色、ドラミングを目指し、またそれぞれのリズムの持つ特徴を理解して、その曲がももっているフィーリングを瞬時に見極めるスピードのある対応力を鍛え、人間味のある血の通ったドラムを演奏出来ることを目的とする。</p>				
到達目標				
<p>本科目はグレード対応科目となっており、1年次後期はグレード6~10に準拠して授業が進行する。常に力みがないかを、チェックしながら16分音符を中心としたフレーズ、リズムパターンをさまざまな例を使ってスピード感、キレを大事にしたドラミングを演奏できるようにする。手と足を混ぜたコンビネーションフレーズを叩いても、体の軸が不必要にぶれない安定したドラムを叩けるようになる。また、最重要要素の一つである裝飾音符に特に丁寧に取り組み、小音量、大音量のバランスを操り、立体感のあるドラミングができるようになる。</p>				
教育方法等				
授業概要	<p>学生個々が持つ身体的特性（手、指や身体の高さ）等に留意しながら、グループレッスン形式で進行する。他の学生の演奏を自分ならどう演奏するか？と感じながら受けとめ、理解する。さらにそれを自分が演奏する場合はどのような音が出せるかを意識しながら受講する。授業中の演奏だけではなく、プロのプレイヤーの演奏と自分の演奏を比較し、上級者も中級者も常に向上心を持って演奏技能を発展させることを目指す。</p>			
注意点	<p>キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。音楽業界の動きや最先端プレイヤー等について概説するので、自分でも情報を収集し、演奏技能の向上に努める事。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。</p>			
評価方法	種別	割合	備 考	
	試験	30%	試験と課題を総合的に評価する	
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する	
	提出物	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する	
	成果発表表 (口頭・実技)	30%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する	
平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）				
回	授業内容	各回の到達目標		
1回	前期のおさらい	前期の復習		
2回	バスドラム、ダブル奏法	足のダブル奏法を正しく理解し、演奏できる。		
3回	16ビート（1）	グレード8対応。ハイハットに様々なアクセントをつけて16ビートを叩ける。		
4回	16ビート（2）	グレード8対応。ウラ拍にアクセントをつけて16ビートが叩ける。		
5回	16ビート（3）	グレード8対応。16分音符のバスドラムパターンで16ビートが叩ける。		
6回	手足のコンビネーション（1）	グレード6対応。手と足を混ぜた8分、16分フレーズを叩ける。		
7回	手足のコンビネーション（2）	グレード6対応。リニアドラミングを理解し、叩ける。		
8回	ダブルストローク、バラディドル（1）	グレード7対応。リバウンドを使って連続した音符を叩ける。		
9回	ダブルストローク、バラディドル（2）	グレード7対応。ダブルストロークの原理を理解し、ダブルストロークを使って16分音符を叩ける。		
10回	ダブルストローク、バラディドル（3）	グレード7対応。4つのバラディドルを使ってフレーズを叩ける。		
11回	ドラッグ（1）	グレード9対応。ゴーストノートを使った基本のフレーズが叩ける。		
12回	ドラッグ（2）	グレード9対応。ドラッグをゴーストノートとして叩ける。		
13回	3連のリズムパターン（1）	グレード10対応。基本的な3連系のリズムパターンを叩ける。		
14回	3連のリズムパターン（2）	グレード10対応。ゴーストノートを取り入れた3連系リズムパターンを叩ける。		
15回	総まとめ	前期、後期でやった内容を振り返る。		

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度(平成31年度)	科目名	テクニカル2
科目基礎情報				
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	プレイヤーコース キーボード専攻	開設期 後期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数 30時間
単位数	1単位	授業形態	実習	
教科書/教材	参考書：キーボードバックギングまる覚え、ジャズ無窮動トレーニング、ピアノのテクニック			
担当教員情報				
担当教員	佐久間	実務経験の有無・職種	有・ミュージシャン	
学習目的				
楽器を演奏するには自分の指や体を物理的にコントロールし、思いのままに演奏できることが不可欠である。この授業では、前期授業を踏まえ、楽器の構造や肉体の構造から鑑みた、合理的なプレイフォームを学ぶ。プロミュージシャン(ピアニスト、キーボーディスト)を想定し、クラシック式フレーズから左右の各指の独立が出来るようにする。16ビート、シャッフル、三連など、前期と比べてより技術が要されるテクニックを学ぶ。バンドに交じってセッションに参加出来るテクニック、フレーズを学ぶ。				
到達目標				
本科目はグレード対応科目となっており、1年次後期はグレード6～10に準拠して授業が進行する。AnyKeyのメジャーダイアトニックコードを網羅し、自分が弾いている音階がきちんとイメージ出来るようになる。また、ただ単にコードを弾くだけではなくオブリを含めた簡単な味付けのレパートリーを増やす。その際は自分の手癖だけではなく、往年の名曲等から他のミュージシャンのフレーズ等も学びながら自分のレパートリーに加えることができるようになることを到達目標とする。				
教育方法等				
授業概要	学生個々が持つ身体的特性(指の長さや身体の大きさ)等に留意しながら、グループレッスン形式で進行する。他の学生の演奏を自分ならどう演奏するか?と感じながら受けとめ、理解する。さらにそれを自分が演奏する場合はどのような音が出せるかを意識しながら受講する。授業中の演奏だけではなく、世界的プレイヤーの演奏と自分の演奏を比較し、上級者も中級者も常に向上心を持って演奏技能を発展させることを目指す。			
注意点	キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める(詳しくは、最初の授業で説明)。音楽業界の動きや最先端プレイヤー等について概説するので、自分でも情報を収集し、演奏技能の向上に努める事。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。			
評価方法	種別	割合	備 考	
	試験	30%	試験と課題を総合的に評価する	
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する	
	提出物	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する	
	成果発表表 (口頭・実技)	30%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する	
平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画(1回～15回)				
回	授業内容	各回の到達目標		
1回	調号とリードシート(1)	グレード6対応。調号(最大3つまで)を見た瞬間に対応するメジャースケールが演奏できる。		
2回	調号とリードシート(2)	グレード6対応。#系調号の特性と、b系調号の特性を理解して演奏できる。		
3回	調号とリードシート(3)	調号を3つ以上に増やし、それぞれのメジャースケールを両手で演奏できる。		
4回	エレピ	グレード7対応。エレピの音色、特性を理解し演奏できる。		
5回	エレピ、その他音色	自分で思った通りにエレピの音色を調整できる。またクラビなど他の音色も同様に理解し演奏できる。		
6回	バックギング(1)	グレード8対応。指定されたコード通りにバックギングができる。		
7回	バックギング(2)	グレード8対応。BPM120に設定し、指定されたコードに対して8分音符で演奏できる。		
8回	コード展開	グレード9対応。ダイアトニックの展開系を3種、AnyKeyで演奏できる。		
9回	分数コード(1)	グレード9対応。分数コードの表記の意味を理解し、演奏できる。		
10回	分数コード(2)	指定された分数コードだけでなく、自分で分数コードを探り、発見しレパートリーとして演奏できる。		
11回	コード進行	グレード10対応。自分で3つ以上のコード進行を作成して演奏できる。		
12回	コード進行とバックギング(1)	自身で作成したコード進行に対して、8分バックギングや他のキーへの移調を行って演奏できる。		
13回	コード進行とバックギング(2)	前回の内容に加え、オブリ、アクセント等を加えて演奏できる。		
14回	課題	こちらで一年間学んだ分の内容の課題を出し、それに対して即座に対応して演奏できる。		
15回	まとめ	全体のまとめ		